

自衛隊記念日レセプション 2020 年におけるスピーチ（2020 年 12 月 15 日）

●ベトナム国防省人民軍副総参謀長フン・シー・タン中将をはじめ、ご列席の皆様。本日は自衛隊記念日レセプションにご参加いただき、ありがとうございます。新型コロナウイルスの影響により、7月から延期していた自衛隊記念日レセプションですが、ベトナム政府と国民のみなさまの御尽力により感染が封じ込められているおかげで、本日、開催することができました。

●近年のベトナムの目覚ましい経済発展には、日本はもとより、世界が注目しています。インド太平洋地域における法の支配に基づく自由で開かれた海洋秩序を維持・強化し、この地域のいずれの国にも分け隔てない安定と繁栄をもたらす「自由で開かれたインド太平洋」を推進するため、ベトナムの重要性は、今後、ますます高まっています。本年9月に就任した菅総理大臣がベトナムを最初に訪問したことが、ベトナムの重要性を端的に表現しています。更に、今年ベトナムは、ASEAN 議長国、国連安保理非常任理事国でもあり、政治や安全保障の面でも非常に重要な役割を担っています。

●日越関係は、現在最良の関係にある、と言われていています。両国は、政治安全保障、経済、文化、あらゆる面で多くの戦略的利益を共有しており、まさに両国は戦略的パートナーです。しかしながら、本当の意味で対等な関係が築けているのか、日本人は、現在の大きく飛躍したベトナムを知っているのか、というと、まだ足りないと思っています。2023年、日越外交関係樹立50周年の記念の年を迎えるまでに、日本側が正しくベトナムを理解し、互いが互いをリスペクトする、真に特別な関係を築きたいと思っています。

【防衛協力・交流】

2018年4月、リック国防大臣が訪日し、今後10年間を見据えた「日越共同ビジョン」に日越国防大臣が署名した以降、日越間における防衛交流・協力は急速に進展しています。

【高官往来】

先月には、岸防衛大臣とリック国防大臣とのテレビ会議が行われる等、コロナ渦においてもハイレベル交流は継続をしています。また、昨年から今年にかけて、統合幕僚長、海上幕僚長、航空幕僚長が当地を訪問いたしました。

【艦艇・航空機の往来】

本年4月、ソマリア沖・アデン湾での任務を終えホーチミンに寄航した海上自衛隊哨戒機P-3Cにエンジントラブルが発生しました。この際、新型コロナウイルスが世界中で大流行する中でも、P-3Cのタンソンニャット空港への寄航許可、不具合発生後のクルーや追加派遣された整備員の入国の許可、交換用のエンジンを輸送するための輸送機の手入れなど、「困った時に頼ることの出来る本当の友達」として、ベトナムは日本を全力で支援してくれました。

また、本年10月、新型コロナウイルスの中、護衛艦「かが」、「いかづち」、潜水艦「しょうりゅう」がカムランに寄港いたしました。

【能力構築支援】

昨年、「航空救難」「水中不発弾処理」「サイバーセキュリティ」の分野で協力を推進しました。また、国連三角パートナーシップの枠組みで、「重機操作」の協力も実施しました。現在、日本が最も協力を進めているのはベトナムであり、合計10の分野で協力を進めています。

【防衛装備品・技術移転協定】

本年10月に菅首相が訪越した際に、越リック首相と「防衛装備品・技術移転協定」について実質合意をいたしました。まもなく、署名ができると思います。

【人材育成】

人材育成の分野でも協力は進んでおり、本年、防衛大学校がベトナムからの留学生を最も受け入れております。

このように、新型コロナウイルスにより、人の往来が困難な状況に合っても、日越両国の関係は益々進展しています。

●私の話はここで終わりにします。なお、本日は株式会社IHI様にご協力いただき、ブース展示をしておりますので、ぜひご覧下さい。

●最後に、皆様の御健勝、自由で開かれたインド太平洋地域の平和と繁栄を祈念して、皆様と乾杯したいと思います。御唱和ください、乾杯！（了）